

ポーランド政治・経済・社会情勢

(2013年9月5日～11日)

平成 25 年(2013 年)9 月 13 日

H E A D L I N E S

政治

ポトカルパツキエ県における上院補欠選で「法と正義」(PiS)候補者が勝利
 ゴヴィン前法相、「市民プラットフォーム」(PO)から離党
 3大労組、4日間にわたる大規模抗議デモを開始
 左藤防衛大臣政務官がポーランド国防省を訪問
 ポーランド・リトアニア外相会談
 シェモニャク国防相がウクライナを訪問
 シリア情勢に関するトウスク首相とバイデン米副大統領との電話会談
 ポーランド・モルドバ首脳会談
 ポーランド・ルーマニア外相会談
 コモロフスキ大統領がマケドニアを訪問
 アウン・サン・ス・チー女史がポーランドを訪問

経済

2014年政府予算案が発表される
 食料品の販売が減少
 輸出が堅調な伸び
 FagorMastercook 社及び Haier 社がヴロツワフでの冷蔵庫生産に投資
 PKPがEU基金の全消化を目指す
 LPG車需要の高まりを受け、自動車各社がLPG車の販売を開始
 貨物線路近代化に300億ユーロ
 オペルがアストラVモデルの生産を2015年から開始予定
 旅行産業が回復
 ブリティッシュ・アメリカン・タバコ社がポーランドで700名の新規雇用を創出
 原子力発電所建設の統合入札手続きは2013年末までに開始予定
 ポーランドは原子力エネルギーの導入準備が整っていると評価 (IAEA)
 シェールガスの収益性は不透明
 ポーランドーフランス原子力協力
 石炭が今後も主要なエネルギー源
 LNGターミナルの建設完了時期を6か月先送り
 ポーランドが中東欧で最も魅力的 (PwC社)
 ポーランドでの再投資は世界平均以上 (AmCham 調査)

大使館からのお知らせ

ポズナンにおける領事出張サービスについて
 平成25年度後期分教科書の配付について
 東日本大震災義捐金受付について
 文化行事・大使館関連行事

在ポーランド日本国大使館

ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000

http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm

【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届」を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！
 問合せ先 大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書、在外投票、旅券、戸籍・国籍関係の届出についてもどうぞ。

政	治
内	政

ポトカルパツキエ県における上院補欠選で「法と正義」(PiS)候補者が勝利【8日】

8日、ポトカルパツキエ県にて上院補欠選挙が行われ、最大野党「法と正義」(PiS)のプパ候補が60.84%の票を獲得して勝利した(投票率15.84%)。今次上院補欠選挙は、オルティル上院議員(PiS)のポトカルパツキエ県知事就任に伴う辞職を受けて実施されたもの。

ゴヴィン前法相、「市民プラットフォーム」(PO)から離党【9日】

9日、ゴヴィン前法相は、自身の「市民プラットフォーム」(PO)からの離党を発表した。同前法相は、

離党理由について、4日にトウスク首相が発表した社会保険庁(ZUS)と公開年金基金(OFE)に関する改革案をはじめ、トウスク政権の政策に同意できない旨述べた。

3大労組、4日間にわたる大規模抗議デモを開始【11日】

11日、「連帯」等の3大労組は、トウスク政権の政策運営等に抗議するため、ワルシャワにて4日間にわたる大規模抗議デモを開始した。11日は、下院前にテント村ができた他、8省庁の前で個別の抗議デモが行われ、警備当局の情報によると約18,000人が参加した。

外	交
---	---

左藤防衛大臣政務官がポーランド国防省を訪問【6日】

5～7日、左藤防衛大臣政務官がポーランドを訪問。第21回国際防衛産業展示会を視察すると共に、6日にはシエモニャク国防相を表敬し、MDやサイバー防衛等、今後の両国防衛協力分野について意見を交換。今秋には両国防衛当局者間協議が予定されている。

ポーランド・リトアニア外相会談【7日】

リトアニアで開催されたEU外相非公式会合に出席したシコルスキ外相は、リンケビチュウス・リトアニア外相と会談、二国間関係、11月の東方パートナーシップ首脳会合、シリア情勢等について意見交換を行った。

シエモニャク国防相がウクライナを訪問【9日】

9日、シエモニャク国防相は、ゴチュウ参謀総長、スクシプチャク国防次官(装備・近代化担当)とともにウクライナを訪問。レベディエフ(Pawlo Walentynowicz Lebediew)ウクライナ国防相と会談し、本年中にポーランド・ウクライナ・リトアニア合同旅団(LITPOLUKR BRIGADE)の創設文書に署名することについて合意。

シリア情勢に関するトウスク首相とバイデン米副大統領との電話会談【9日】

トウスク首相は、バイデン米副大統領と電話で会談し、ポーランドはシリアへの軍事行動に参加しな

い旨伝達した。

ポーランド・モルドバ首脳会談【9日】

レアンカ・モルドバ首相がポーランドを訪問し、トウスク首相と会談した。同会談の主要議題は、東方パートナーシップ首脳会合におけるモルドバとEUとの連合協定仮署名の見通し。

ポーランド・ルーマニア外相会談【10日】

シコルスキ外相は、ルーマニアを訪問。コルラツェアン外相と会談し、東方パートナーシップ首脳会合、安全保障政策、シリア情勢等について協議した。

コモロフスキ大統領がマケドニアを訪問【10～11日】

コモロフスキ大統領はマケドニアを訪問し、イヴァノフ大統領他と会談した。コモロフスキ大統領は、マケドニアはバルカン地域の安定にとって重要であり、マケドニアの欧州大西洋志向をポーランドは支持すると述べた。

アウン・サン・ス・チー女史がポーランドを訪問【11日】

アウン・サン・ス・チー女史がポーランドを訪問し、コパチ下院議長及びボルセヴィチ上院議長と会談した。同女史は今回のポーランド、チェコ、ハンガリー訪問の目的は、民主化に向けた地域的取組を学ぶことにあると述べた。

経 済

経済・財政政策

2014年政府予算案が発表される【6日】

ポーランド政府は、歳入2,765億ズロチ、歳出3,242億ズロチ、財政赤字477億ズロチとなる2014年通常予算案を発表した。年間GDP成長率2.5%、インフレ率2.7%を想定して作成されており、歳入は2013年修正予算案とほぼ同額であるが、

酒税の15%引上等が既に決定しており、トウスク首相いわく慎重な予算案となっている。歳出については、公開年金基金改革により90億ズロチの財政支出を抑えられる見込みで、修正予算案と比べ30億ズロチの減額が可能となった。

マクロ経済動向・統計

食料品の販売が減少【6日】

ポーランドにおける食料品販売は、2011年は前年比3.4%増、2012年は同2.4%増となっていたが、2013年は233億ズロチで同1.5%増との予測が発表されている。不況による購買力低下も要因として挙げられるが、調査では2013年に入り国民の2/3が食料品に対する支出が増えた旨回答していることから、全般的に贅沢を抑制し食料品価格を意識する国民が多くなってきたといえる。

輸出が堅調な伸び【11日】

中央統計局(GUS)によれば、1月～7月の輸出総額は前年同月比6.2%増となる868億7千万ユーロ、輸入は同1.7%減となる875億2千万ユーロで、貿易赤字は6億5,260万ユーロまで縮小している。また、対ドイツ輸出の占める割合の縮小が顕著で、同24.9%減となっている。

ポーランド産業動向

FagorMastercook社及びHaier社がヴロツワフでの冷蔵庫生産に投資【6日】

FagorMastercook社及びHaier社は5,600万ユーロを投資してヴロツワフに冷蔵庫生産工場を建設する。2014年6月に生産開始予定で、生産台数は、年間50万台から開始し、5年後に100万台まで拡大する。雇用者数は、初期に約500名を雇用し、5年後には約700名まで拡大する。FagorMastercook社はポーランドの大手家電メーカーで、Mastercook、DeDietrich及びFagorのブランド名で、調理設備、洗濯機、食器洗浄機、クッカー・フード及び冷蔵庫を生産している。

のモデルを追加した。Daciaはこれまで3種のLPGモデルを販売している。ルノーも近いうちに販売開始する予定。高級車部門でも代替燃料車の需要が出ており、来年にはアウディがCNG(圧縮天然ガス)車を販売する予定。

PKPがEU基金の全消化を目指す【7日】

ポーランド国鉄(PKP)は、2012年4月に欧州委から2007年～2013年今期多年度予算で割当てられたEU基金200億ズロチの1/3しか消化できない17計画しか署名していないとの批判を受け、契約手続を改善し1年半弱でEU基金の60%を消化する34計画にまで増やした。欧州委及び地方開発省は、EU基金の全消化の可能性もあると評価している。

貨物線路近代化に300億ユーロ【10日】

ポーランド国鉄(PKP)は、2014年～2020年次期多年度予算のEU基金を用いて貨物列車の運行速度を平均時速23キロから50～60キロに向上すべく、貨物線路の近代化に300億ズロチの投資を行う意向を発表した。また、ポーランド東部の路線整備に対しても360ズロチの計画を発表しており、両計画に対するEU基金の割当額が確定した際に、計画の詳細が明らかになる模様。

LPG車需要の高まりを受け、自動車各社がLPG車の販売を開始【9日】

走行距離当たりの燃料費の比較で、LPG(液化石油ガス)車はガソリン車の半額で済むことから、LPG車の需要が高まっており、ヒュンダイはLPG車

オペルがアストラVモデルの生産を2015年から開始予定【10日】

オペルが2015年にアストラVモデルの生産をポーランドのグリヴィツェ工場で開始する。同年から生産台数は大幅に増える見通し。同社は2億ユーロをかけて同モデルを生産するための新たな建屋を建設する。なお、2013年の予想生産台数は約12万台で、2012年の生産台数(12.5万台)から約5%下落する。同工場では現在約3千人が雇用されており、年間生産能力は20.7万台となっている。危機前の2011年には17.4万台を生産していた。現在同工場では、アストラIVハッチバック(全

体の40%)、アストラGTC3ドア(同30%)、アストラ Cascada(10%)が生産されており、更にロシア及びトルコ向けに旧型のアストラ III も生産している。

旅行産業が回復【11日】

過去4年間赤字であった旅行産業が2013年は8千億ズロチの黒字となる見込み。特に7,900億ズロチの赤字を計上した2009年から飛躍的な回復を遂げた。パッケージツアーの販売が前年比11%の増加で、特に大手旅行会社による手配が多く、倒産が懸念される小規模代理店からは客足が離れ、結果顧客1人当たりの支払単価も上昇した。

また、エジプトの政情危機により、欧州内のより高価な旅行先への販売が増え、ギリシャが前年比41.2%増、ブルガリアが同16.1%増となり、エジプトは同17.5%減となった。

ブリティッシュ・アメリカン・タバコ社がポーランドで700名の新規雇用を創出【11日】

ブリティッシュ・アメリカン・タバコ(BAT)社は、ポーランドにおける新たなマーケティング及び流通モデルの一部として、小売業者への直接販売を開始する。新たなシステムは2013年10月末までに導入予定で、販売、財務及び会計部門で500名、外部の流通会社が運用する流通センターで更に200名、計700名の雇用を創出する。

エネルギー・環境

原子力発電所建設の統合入札手続きは2013年末までに開始予定【6日】

PGE EJ1社(原子力発電を担うPGEグループの事業会社)のグランドCEOは、2013年末までに炉型、資金及び燃料供給業者を選定する統合入札手続きを開始するであろうと述べている。また、9月中旬までにオーナーズ・エンジニアリングの申請を受ける予定。なお、政府がポーランド原子力エネルギー・プログラムを決定することが入札開始の条件としている。ポーランド経済省は、本年末までに同プログラムの政府内合意を見込んでいる。

ストは約350米ドル、より楽観的なシナリオでは270~300米ドルであり、米国での採掘コストよりは高いものの、ガスプロムからのガス購入価格よりも安価で、シェールガス開発は収益性があるとされている。しかし、シェールガス価格の低下や、税額の引き上げが起これば、シェールガス開発の収益性は見込めないとしている。

ポーランドは原子力エネルギーの導入準備が整っていると評価(IAEA)【9日】

国際原子力エネルギー機関(IAEA)は、本年3月にポーランドで実施した統合原子力基盤レビュー(INIR)の報告書を公表、ポーランドの原子力プログラムを肯定的に評価するとともに、改善点を列挙した。IAEAは、法的枠組みの更なる改善が必要と指摘するとともに、人材管理の統合計画を整備すべきとしている。また、原子力発電所建設のような大型プロジェクトには、ポーランド公共調達法の適用は適当ではないとしている。IAEAは、ポーランド政府は原子力プロジェクトの主要要素であるリスク管理の役割を完全に理解すべきと指摘している。

ポーランドーフランス原子力協力【10日】

フランスのEDF社及びアレバ社は、ポーランドの Powen-Wafapomp 社、Elektrobudowa 社、Telefonika Kable 社及びラファコ社との4件の協力合意に署名した。合意は、原子力発電所のエンジニアリング及び建設に関する相互研究、教育及び知見の共有に関するものである。アレバ社の Choho ビジネス・ユニット副部長は、一連の合意により、ポーランドの原子炉建設及び開発に向けた最適な提案を行うためのアレバ社及びEDF社へのサプライヤー・ネットワークが強化されるとしている。同氏はまた、フィンランドの Olkiluoto 3原子力発電所の建設にポーランドから約25社が参加しており、ポーランドの原子力発電所建設に従事するための強固な基盤を構築することができたとしている。

シェールガスの収益性は不透明【9日】

ポーランド地質学研究所の調査によれば、現時点でポーランドでのシェールガス探査を開始すれば、ガスプロム社から購入する天然ガスよりも33%程度安価でガスを採掘できるとしている。ポーランドでのシェールガス1,000m³当たり採掘コ

石炭が今後も主要なエネルギー源【11日】

トウスク首相は、カトヴィツェで開催された鉱業フェアにおいて、今後も石炭(無煙炭及び褐炭)がポーランド経済及びエネルギー産業の柱であり続けると述べた。また、再生可能エネルギーについては補助的なものにすぎないとしている。温室効果ガスの削減については、石炭の消費を削減するよりも寧ろ新技術を適用することで行うとしている。専門家が経済省に報告した2050年までの国

内エネルギー需要見通しに関する分析では、①ベンチマークとして、石炭層及び石炭炭鉱への新規投資を行い、2050年に電力会社は6千万トンの無煙炭及び5千万トンの褐炭を利用するシナリオ、②新規投資を行わなかった場合、石炭資源が枯渇するシナリオ、③原子力発電所が建設され、石炭の需要は減少するものの、依然石炭が主要なエネルギー源となるシナリオの3種類を提

示しているが、いずれにおいても石炭が主要な役割を担うことになる。

LNGターミナルの建設完了時期を6か月先送り【11日】

シフィノウィシチェで建設中のLNGターミナルは、当初の予定より6か月遅れの2014年末までに完了するとカルピンスキ国有財産大臣は述べた。

その他

ポーランドが中東欧で最も魅力的(PwC社)【10日】

英国大使館との協力によるPwC社の報告書「中東欧経済スコアカード」において、成長見通しと経済規模からポーランドが中東欧で最も魅力的と評価された。マクロ経済及び政治の安定性、労働市場の競争力はポーランドを魅力的なものとする主たる要素である一方、インフラが最大の障害であるとしている。

ポーランドでの再投資は世界平均以上(AmCham調査)【11日】

在ポーランド米国商工会議所(AmCham)は、ポーランドの外資系企業による再投資は、世界平均

よりも高い、ポーランドの米国系企業は、収益の60%までを再投資しているとしている。ポーランド情報・外国投資庁(PAIIIZ)本部での会合で調査結果を発表し、在ポーランド米国企業の87%以上がポーランド市場での更なる投資を計画している。調査結果によれば、再投資の主たる要因は、良質な人材の確保の容易さ、知的優位性、労働コストの低さ、好意的な投資環境、ポーランド市場の大きさ、経済特別区制度などの様々な支援策となっている。一方、不透明な税制、弛緩した金融法制、硬直的な労働時間規制及び低価格入札を促進する入札法をビジネス上の障害として指摘している。

大使館からのお知らせ

ポズナンにおける領事出張サービスについて

大使館は、10月19日(土)10時から13時までの間、Hotel Mercure Poznan(ul. Roosevelta 20, 60-829,Poznan)において、領事出張サービスを実施します。詳しくは下記当館HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm

平成25年度後期分教科書の配付について

大使館では、ポーランド在住の邦人子女を対象に、平成25年度後期分教科書(小学生のみ)を配付いたします。(後期分は中学生用教科書の配付はありません。また、ワルシャワ日本人学校に通学しているお子様には学校から配付されますので、今回の配付の対象とはなりません。)詳しくは下記当館HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm

東日本大震災義捐金受付について

当館における東日本大震災義捐金受付は、平成26年3月31日(月)までに延長いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin_j.htm

文化行事・大使館関連行事

〔開催中〕Loud! ビデオ・アート【8月23日～9月29日】

カトヴィツェ市にて、ビデオ・アート展示が開催中です。60年代からの世界中のアーティストの作品、中久保田成子氏の作品も展示されています。

開催場所：現代美術館(BWA,住所：al. Korfantego 6, Katowice, , ホームページ：http://www.bwa.katowice.pl/p/351/glosnoloud_przeglad_sztuki_wideo_od_lat_60_xx_w/)

〔予定〕国際ポーランド相撲選手権大会【9月14日(土)】

シェドルツェ市にて、ポーランド相撲協会による国際ポーランド相撲選手権大会が開催されます。入場無料。
問合せ先:ポーランド相撲協会(Polski Związek Sumo)
Eメール:sumo@sumo.org.pl ホームページ:<http://www.mono.boo.pl/>
開催場所:シェドルツェ市(Siedlce)

〔予定〕日本デー・ファミリーピクニック【9月14日(土)12時～17時】

ワルシャワ市にて、ヒクソン・ファイト・クラブによる日本デー・ファミリーピクニックが開催されます。武道デモンストレーション、日本の歴史・文化に関するプレゼンテーション等が行われます。入場無料。
問合せ先:ヒクソン・ファイト・クラブ(Fight Club Hikson) ホームページ:<http://www.fightclubhikson.pl/> メール:robertwojnowski@poczta.onet.pl
開催場所:ワルシャワ市、ビャウオウエンカ区スポーツ・センター、(住所:ul. Strumykowa 21, Warszawa)

〔予定〕ホイニツェ日本デー【9月14日(土)～15日(日)】

ホイニツェ市にて、ホイニツェ合気道協会・ホイニツェ市役所・ホイニツェ文化センターの共催による日本文化デーが開催されます。同イベントは、合気道セミナー、日本武道のデモンストレーション、写真展、日本文化に関するワークショップ、映画祭等予定されています。
問合せ先:ホイニツェ合気道協会(電話:501-399-629, ホームページ:www.aikido.chojnice.pl, Eメール:aikido@chojnice.pl)
開催場所:ホイニツェ文化センター(住所:Swarozyca 1, Chojnice, 電話:52 395 01 50, ホームページ:www.chdk-chojnice.pl, Eメール:chdk@chojnice.pl)

〔予定〕日本文化フェスティバル「アスコン 14」【9月14日(土)～15日(日)】

カトヴィツェ市にて、シロンスク・ファンタジー・クラブによる日本文化フェスティバルが開催されます。同フェスティバルは、講演会・日本文化に関するワークショップ・日本に関する知識コンクール・コスプレなどの予定です。有料です。
問合せ先:シロンスク・ファンタジー・クラブ・電話:32-253-98-04, ホームページ:www.skf.org.pl
開催場所:カトヴィツェ市シロンスク工場研究所(Slaskie Techniczne Zakłady Naukowe)(住所:ul.Sokolska 26, Katowice)

〔予定〕オストルダ日本武道フェスティバル【9月15日(日)16時～20時】

オストルダ市にて、オストルダ極真空手クラブによるオストルダ日本武道フェスティバルが開催されます。日本武道のデモンストレーション・折り紙と書道ワークショップ・日本伝統踊りのデモンストレーションなどが行われる予定です。入場は無料です。
問合せ先:オストルダ極真空手クラブ(Ostrodzki Klub Kyokushin Karate) ホームページ:www.karate.ostroda.pl, Eメール:arturkarate@interia.pl
開催場所:Amfiteatr(住所:ul.Adama Mickiewicza 17a, Ostroda)

〔予定〕オペラ歌手佐藤征一郎氏によるコンサート【9月17日～24日】

17日 18時 プウオツク市 Dom Darmstadt (ul. Tumską 9A, Plock)
22日 18時 シュチェチン市 Klub 13 muz (pl. Żołnierza Polskiego 2, Szczecin)
4日 18時 クラクフ市 マング博物館(ul. Konopnickiej 26, Krakow)

〔予定〕日本映画会「ウォーターボーイズ」【9月18日(水)】

当館広報文化センターにて、日本映画「ウォーターボーイズ」が上映されます。入場無料。座席に限りがありますので、参加ご希望の方は、広報文化センターまでご連絡下さい。
問合せ先・開催場所:在ポーランド日本大使館広報文化センター(住所:Al. Ujazdowskie 51, Warszawa, 電話:22 584 7300, Eメール:info-cul@wr.mofa.go.jp)

〔予定〕そろばんレクチャー・デモンストレーション【9月19日(木)】

当館広報文化センターにて、石戸謙一全国珠算連盟理事長によるそろばんレクチャー・デモンストレーション

が行われます。入場無料。座席に限りがありますので、参加ご希望の方は、広報文化センターまでご連絡下さい。

問合せ先・開催場所：在ポーランド日本大使館広報文化センター（住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa, 電話：22 584 7300, Eメール：info-cul@wr.mofa.go.jp）

【予定】日本映画「ハーメルン」試写会【9月20日（金）】

当館広報文化センターにて、坪川拓史監督をお迎えして映画「ハーメルン」の試写会を実施します。入場無料。座席に限りがありますので、参加ご希望の方は、広報文化センターまでご連絡下さい。

問合せ先・開催場所：在ポーランド日本大使館広報文化センター（住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa, 電話：22 584 7300, Eメール：info-cul@wr.mofa.go.jp）

【予定】「ジャパン・インDEPENDENT」日本映画祭【9月20日～29日】

カトヴィツェ市にて坪川拓史監督と富田克也監督による映画が上映されます。

開催場所：カトヴィツェ市

詳細：<http://arsindependent.pl/pl/category/program/japan/>

この資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

皆様からの情報提供をお待ちしています

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまでご連絡ください。（営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますのでご了承ください。）

【お問い合わせ・配信登録】

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先メールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のアドレスまでご連絡ください。

大使館ウェブサイト(<http://www.pl.emb-japan.go.jp/index.j.htm>)も併せて御覧ください。

[在ポーランド日本国大使館 newsmail@wr.mofa.go.jp](mailto:newsmail@wr.mofa.go.jp)

（ご連絡は電子メールでお願いします。）